

## IV. 診療科活動状況

---

## 総合内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院では医師臨床研修制度が必修化される前からローテーション研修を行っており、医師研修に力を入れてきました。内科医は「専門医であろうとも総合的基礎力を備えた医師であれ」というポリシーを掲げて研鑽を積んできました。2012年度に内科病棟のシステム変更を行うことになり、総合内科を立ち上げました。

当院の初期研修医は総合内科から研修をスタートします。医師としての第一歩を踏み出す彼らに基本的な診療スタイルを身につけさせる教育も総合内科の大きな役割です。医師初期研修委員会を月に2回開催し、指導方針の確認を行い、研修医の育成も担っています。

地域医療の現場では、いかなる疾患にも対応できる総合力が求められています。私たち総合内科は「特に専門家に任せるべきものでない限りは、いかなる患者様でも担当する」という態度で診療を行っています。所属する内科医は病院総合内科の専門家（オールラウンダー）としての偏りない高水準の診療を目指しますが、おのおのサブスペシャリティも持っており、その分野では専門診療の責任を担っています。

入院診療では、肺炎や尿路感染症をはじめとする感染症・心不全・糖尿病・脳梗塞等について標準的な医療を提供することはもちろんですが、高齢であることや心理的社会的に複雑な背景から倫理的判断を迫られるケースについての集団的カンファレンスも活発に行っています。

外来診療では他科と協力して2次救急までの救急外来・全科当直、一般内科外来、それぞれの専門に応じた外来を担当しています。救急車は年間3000件前後搬入されており、日々多彩な救急疾患の診療に当たっています。病棟内に内科HCU(高

度治療室)があるため、ERからの入院への迅速な対応や急性期の管理も行っています。

### 2. スタッフ

総合内科科長	忍 哲也	日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 日本消化器病学会消化器病専門医
循環器内科科長	金子 史	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医
消化器科医長	守谷能和	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
病棟医長	山田歩美	日本内科学会認定内科医
病棟副医長	土佐素史	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医
医員	楠田待子	日本内科学会認定内科医
医員 (後期研修医)	熊谷尚子	日本内科学会認定内科医
医員 (後期研修医)	佐藤雄一	日本内科学会認定内科医
家庭医療後期研修 プログラムフェロー	野村あかり	
家庭医療後期研修 プログラムフェロー	山田登紀子	

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

内科急患総合外来、各科専門外来、一般全科当直、ER担当

#### 3.2 病棟診療

診療実績表参照

診療実績 158傷病群+包括外25例

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	年齢	在院日数	診断検査	教育入院	計画的繰り返し入院	その他の加療
	包括外	25	0	9	25	63.0	2.6				25
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	12	3	2	0	71.8	14.5				12
010060	脳梗塞	82	26	32	3	75.9	16.2	1		2	79
010061	一過性脳虚血発作	10	2	3	0	74.7	6.3				10
010069	脳卒中の続発症	16	0	11	1	76.8	3.4			13	3
010160	パーキンソン病	9	2	6	0	81.7	9.9			5	4
010230	てんかん	19	12	8	0	62.2	12.3				19
030400	前庭機能障害	31	26	4	0	67.3	5.0				31
040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	97	26	43	3	72.3	12.2				97
040081	誤嚥性肺炎	76	36	31	13	82.4	19.6				76
040100	喘息	9	4	4	0	60.6	7.3				9
040120	慢性閉塞性肺疾患	9	4	2	1	77.4	12.6				9
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）再発性心筋梗塞	13	7	5	1	76.6	7.8				13
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	168	4	69	18	69.5	4.5	113			55
050070	頻脈性不整脈	19	6	7	1	75.8	8.8				19
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む）	19	2	10	0	74.1	9.4	8			11
050130	心不全	50	15	29	1	76.1	17.4				50
050170	閉塞性動脈疾患	30	2	13	7	71.4	7.3	11			19
050210	徐脈性不整脈	29	4	14	25	78.6	13.5			6	23
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	9	2	4	5	71.0	8.0	1			8
060090	胃の良性腫瘍	10	0	1	0	68.7	1.1	10			
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	12	5	4	4	69.4	16.3				12
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	11	4	6	9	72.0	13.9				11
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む）	9	0	5	5	64.3	17.0				9
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	13	1	6	9	72.1	10.6				13
080011	急性膿皮症	16	5	6	2	72.2	11.9				16
100070	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く）	38	5	18	0	67.4	13.1		15		23
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	59	10	37	26	67.8	18.6				59
110310	腎臓または尿路の感染症	65	27	25	8	78.4	12.1				65
130030	非ホジキンリンパ腫	10	0	2	2	67.4	17.5			6	4
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	10	1	4	8	78.5	23.5			3	7
150010	ウイルス性腸炎	9	2	2	0	51.9	6.6				9
161070	薬物中毒（その他の中毒）	16	12	1	1	49.6	6.8				16
180040	手術・処置等の合併症	21	3	14	16	68.2	7.0				21
	その他の診断群	336	87	125	55			27	1	20	288
	計	1367	345	562	249			171	16	55	1125

## 循環器内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査などを行い、心臓病の早期発見に努めます。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈CT検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

### 2. スタッフ

副院長 福庭 勲

日本内科学会認定内科医

日本循環器学会認定循環器専門医

科長 金子 史

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など  
手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療。  
ペースメーカー外来（月1回）

#### 3.2 入院治療

次頁診療実績表参照

#### 3.3 検査

次頁下表参照

#### 3.4 治療

3.4.1 経皮的冠動脈ステント留置術 19例  
形成術 1例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：LAD 8例、LCX 6例、  
RCA 8例、CTO病変4例、  
ISR病変2例（LCX 1例、LAD 1例）

3.4.2 下肢血管拡張術 9例

〈治療内訳〉

病変部位（重複含む）：CIA 4例、EIA 2例、  
SFA 2例、CTO病変3例

3.4.3 ペースメーカー移植術 22例

不整脈：完全房室ブロック1例（DDD 1例）  
高度房室ブロック8例（DDD 6例、VVI 2例）  
洞不全症候群 12例（DDD 3例、VVI 9例）  
心房細動 1例（VVI 1例）

3.4.4 ペースメーカー交換術 4例

3.4.5 IVCフィルター留置 3例

診療実績（診断群分類6桁別、2015年退院患者） \*医科点数表Kコード

傷病名	件数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	年齢	在院 日数	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む）、再発性心筋梗塞	20	12	7	1	80.2	8.6			20
狭心症、慢性虚血性心疾患	173	5	73	19	69.8	4.7	113		60
心筋症（拡張型心筋症を含む）	7	3	3	0	61.4	14.3	2		5
頻脈性不整脈	34	8	13	1	76.2	11.8			34
弁膜症（連合弁膜症を含む）	28	6	15	0	76.2	10.7	8		20
心内膜炎	3	1	1	0	70.3	24.0			3
急性心膜炎	1	0	1	0	85.0	12.0			1
心不全	93	31	52	2	78.3	17.6			93
高血圧性疾患	9	2	4	0	64.9	7.3	1		8
解離性大動脈瘤	4	2	3	0	79.5	4.0			4
閉塞性動脈疾患	32	3	14	7	72.4	7.6	11		21
静脈・リンパ管疾患	4	0	1	0	80.5	10.5			4
肺塞栓症	2	1	0	1	66.5	23.0			2
循環器疾患（その他）	5	3	3	1	76.8	6.4	1		4
徐脈性不整脈	32	5	14	27	79.1	14.2		6	26
その他の循環器の障害	4	0	2	2	73.5	23.0	2		2
計	451	82	206	61			138	6	307

検査及び処置名	件数
ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）	22
ペースメーカー交換術	7
内シャント設置術	28
下肢PTA	4
経皮的冠動脈形成術	0
経皮的冠動脈ステント留置術	20
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	12
体外ペースメーカーキング	11
心嚢穿刺	1
UCG	3141
TMT	325
ホルターECG	871
経食道心エコー検査	5
血管内超音波検査	27
心臓CT	96
IVCフィルター	1

## 呼吸器内科

### 1. 概要、特徴、特色

人口10万対医師数の少ない埼玉県において、呼吸器診療を専らとする医師は極めて少ない状況です。しかし、肺癌を始めとした呼吸器疾患は減少するどころか多くは増加しているのが現状です。そこで当院の立地している東浦和駅周辺地域において、地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺癌などに対する診療を外来・病棟で展開しています。

当院呼吸器外科とも連携をとり、肺癌手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども依頼しています。

また、当院呼吸器内科の特色の1つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

年に1回、地域住民に向けて閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙することを志しています。

### 2. スタッフ

科長 原澤慶次 日本内科学会認定内科医

医員 草野賢次

日本呼吸器学会関連施設

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

常勤2名ならびに非常勤医師4名で予約外来を

行い、2015年は104名の新患患者を受け入れています。

2012年から始めた慢性閉塞性肺疾患の患者を中心とした2ヵ月間の外来呼吸リハビリテーションを継続して実施し、リハビリ部門だけでなく栄養士や薬剤師なども含め多職種で患者の病状維持に努めています。今後もリハビリテーション部門と連携し、拡充していく予定です。

#### 3.2 検査・手術

病棟での経皮的気管切開術を行っています。2015年は3件の手術を行いました。

気管支鏡検査は原則入院とした上で施行しており、2015年には96件の実績があります。また、局所麻酔下胸腔鏡検査にも取り組んでおり、2015年は10件施行しました。原因不明胸水の診断目的などに有用であり、今後も積極的に行いたいと考えています。

#### 3.3 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています(次頁診療実績表参照)。

### 4. 教育・研修・研究活動

#### 4.1 教育・研修

4.1.1 日本呼吸器学会関連施設として、呼吸器内科志望の後期研修医に対する教育・研修プログラムを展開しています。現在、後期研修医1名がプログラムに沿って研修中です。研修の一環として、他院呼吸器内科に1年間の外部研修を行うことを必須としています。

4.1.2 院内での研修のために、週1回の割合で多職種合同の病棟カンファレンスを行い、複数の視点でより良い診療を行うことを目指しています。

4.1.3 週に1回、呼吸器外科との合同カンファレンスを行い、手術症例のみならず幅広い症例の検討を行っています。

診療実績（診断群分類6桁別、2015年退院患者） \*医科点数表Kコード

傷病名	件数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	年齢	在院日数	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	1	1	0	1	84.0	26.0			1
呼吸器系の良性腫瘍	1	0	0	0	39.0	2.0	1		
肺の悪性腫瘍	107	7	43	10	70.4	17.0	37	29	41
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	4	1	1	0	77.3	20.3			4
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	12	4	4	0	72.8	10.3			12
肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	274	84	110	7	73.8	14.4			274
誤嚥性肺炎	146	66	65	18	81.9	22.8			146
下気道感染症（その他）	2	0	1	0	83.0	15.5			2
喘息	47	11	16	1	61.8	12.4			47
間質性肺炎	59	19	27	3	74.6	26.2	1		58
慢性閉塞性肺疾患	62	25	28	2	75.7	19.0			62
呼吸不全（その他）	7	4	2	0	81.9	18.4		1	6
気道出血（その他）	5	2	2	1	74.4	10.4			5
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	13	5	4	1	67.8	24.9			13
呼吸器のアスペルギルス症	18	7	10	1	71.3	36.4			18
呼吸器の結核	3	2	1	1	68.7	28.7			3
抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	9	2	3	1	79.9	15.4	1		8
胸水、胸膜の疾患（その他）	6	0	4	1	84.2	16.8			6
気胸	14	3	5	5	51.8	11.4			14
気管支拡張症	3	1	2	0	78.3	14.3			3
横隔膜腫瘍・横隔膜疾患（新生児を含む）	2	0	2	0	86.0	7.5			2
急性呼吸窮〈促〉迫症候群	1	1	1	0	79.0	3.0			1
肺高血圧性疾患	1	1	1	0	79.0	27.0			1
その他の呼吸器の障害	1	0	1	0	76.0	31.0			1
計	798	246	333	53			40	30	728

化学療法	
患者数	18
延べ回数	35

処置検査	
気管切開術	3
新規人工呼吸器管理	32
胸腔鏡検査	10
気管支鏡検査	96
呼吸器外来新患	104
HOT新規導入	89

4.1.4 院内学習会「人工呼吸器について」の講師を務めました。

#### 4.2 研究

2015年学会発表実績

##### ・原澤慶次

「入院中に播種性クリプトコッカス症を発症した1例」

第620回日本内科学会関東地方会

##### ・草野賢次

「悪性腫瘍の骨転移との鑑別に苦慮した脊椎カリエスの1例」

第620回日本内科学会関東地方会

## 消化器内科

### 1. 概要、特徴、特色

当院消化器内科は、日本消化器病学会関連施設・日本消化器内視鏡学会指導施設として、地域に密着した急性期病院の消化器内科の役割を果たすべく、診療にあたっています。

消化器専門外来はもとより、当院の1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間約3000台に及び、消化管出血や黄疸を主訴とする患者が数多く来院するため、救急医療において消化器内科医師の果たす役割は大きくなっています。地元の開業医の先生方とも連携し、定期的に地域医療懇談会を開催し、消化器専門科として紹介患者の受け入れや、開業医の先生方への紹介も積極的に行っています。

消化器内科では上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、内視鏡的膵胆管造影及びその関連検査、超音波内視鏡検査、治療内視鏡を行っています。ポリープや早期がんに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)や粘膜下層剥離術(ESD)や、緊急の胆道ドレナージ術(ERCP・PTBD)の件数も年々増加しています。また、辻忠男医師の指導のもと、膵石治療にも積極的に取り組んでおり、症例数は国内第1位で、大学病院やがんセンターなどからも紹介患者さんを受け入れています。

消化器専門外来では、消化性潰瘍・炎症性腸疾患・肝疾患・消化器癌などの慢性期管理を行っています。最近ではB型慢性肝炎・C型慢性肝炎の治療件数も増えています。

さらに重症急性膵炎や潰瘍性大腸炎で血液浄化療法が必要になる場合は透析チームと、癌患者さんに対しては外科や化学療法チーム・緩和ケアチームと連携し、治療を行っています。

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器学会関連施設

日本肝臓学会関連施設

### 2. スタッフ

院長	増田 剛	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器病学会消化器病専門医
		日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医
院長補佐	高石光雄	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会消化器病専門医
副院長・ 内科部長	小野未来代	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医
内科診療部長	辻 忠男	日本内科学会認定内科医 日本超音波医学会認定超音波指導医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本胆道学会認定指導医
内科副部長	忍 哲也	日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医
消化器科医長	守谷能和	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
病棟医長	田中宏昌	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器病学会消化器病専門医

消化器内科医長 入月 聡

日本消化器病学会消化器病専門医

医員 久保地美奈子

日本内科学会認定内科医

日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・

ケア認定医

医員 大石克己

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

### 3. 診療実績

(次頁診療実績表参照)

### 4. 教育・研修・研究活動

当科では標準的な上部・下部消化管内視鏡検査、ERCP、治療内視鏡を行うことができ、あらゆる消化器疾患患者の外来・病棟主治医として活躍できる消化器内科医を育成することを目指しています。また内科医である以上、消化器以外の症候や疾患を持つ患者を診療する場面も少なからずあるので、総合的力を向上させる目的で50～100床規模の県内拠点病院での研修を義務づけています。

診療実績 (診断群分類6桁別、2015年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病名	件数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	年齢	在院日数	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	5	0	0	3	70.8	7.0	1.0		4
胃の悪性腫瘍	55	4	27	26	71.7	12.6	3.0	12	40
小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	3	1	2	1	74.3	6.3			3
結腸 (虫垂を含む) の悪性腫瘍	21	3	7	7	76.5	22.9	6.0		15
直腸肛門 (直腸S状部から肛門) の悪性腫瘍	7	3	3	1	71.7	17.7		1	6
肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	70	6	42	41	75.5	12.9	4.0	7	59
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	19	1	6	10	78.5	16.9	1.0		18
膵臓、脾臓の腫瘍	33	1	19	9	72.1	13.6	5.0	3	25
胃の良性腫瘍	17	0	6	5	68.7	2.8	12.0		5
小腸大腸の良性疾患 (良性腫瘍を含む)	99	0	25	66	67.1	2.3	30.0		69
穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	61	13	17	14	67.1	9.3	4.0		57
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症 (その他良性疾患)	47	13	19	14	67.0	11.2		2	45
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴わないもの)	50	23	18	35	73.0	12.6			50
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄 (穿孔を伴うもの)	1	1	0	0	73.0	14.0			1
虫垂炎	3	0	2	3	16.3	5.7			3
閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	3	2	0	0	72.7	1.7			3
クローン病等	2	2	0	2	55.0	32.5			2
潰瘍性大腸炎	11	2	2	5	47.0	40.4	1.0		10
虚血性腸炎	30	7	8	1	70.0	9.6			30
ヘルニアの記載のない腸閉塞	40	13	12	11	76.1	14.5			40
肛門周囲膿瘍	2	0	0	0	26.0	7.5			2
内痔核	6	1	2	6	73.0	8.3			6
劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	16	3	6	0	59.1	12.1			16
アルコール性肝障害	27	7	9	3	54.7	10.5			27
慢性肝炎 (慢性C型肝炎を除く)	2	0	1	0	56.0	28.0	1.0		1
慢性C型肝炎	3	0	1	0	59.7	6.3			3
肝硬変 (胆汁性肝硬変を含む)	61	13	28	31	68.5	19.1			61
肝膿瘍 (細菌性・寄生虫性疾患を含む)	6	2	5	5	80.0	39.5			6
肝嚢胞	2	0	0	0	80.5	8.0			2
胆嚢疾患 (胆嚢結石など)	8	3	3	2	52.4	12.6			8
胆嚢水腫、胆嚢炎等	42	11	17	19	72.3	17.7			42
胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	133	30	74	101	74.2	13.6			133
急性膵炎	50	10	30	30	54.3	12.6			50
慢性膵炎 (膵嚢胞を含む)	97	1	90	85	60.1	7.2	5.0		92
腹膜炎、腹腔内膿瘍 (女性器臓器を除く)	5	1	3	3	76.6	32.2			5
その他の消化管の障害	14	5	6	1	74.3	9.6		1	13
計	1051	182	490	540			73.0	26	952

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	6241
上部（悪性）ESD	22
上部（良性）EMR	5
下部消化管内視鏡検査	2382
下部（悪性）EMR	16
下部（悪性）ESD	2
下部（良性）EMR	475
ERCP（ESTなど含む）	456
肝胆道への経皮的処置	39
PEG交換	102
PEG造設	18
腹部アンギオ	304
PEIT	15
TAE	44
EIS	4
EVL	19
止血術	14
食道ステント	3
食道拡張	15
肝生検	4
拡張術	28
穿刺	37
ラジオ波焼灼	0
超音波内視鏡検査	39
腎石ESWL（一連）	401
胆石ESWL（一連）	28

B型肝炎患者	94
うち核酸アナログ治療	45
C型慢性肝炎患者	446

## 小児科

### 1. 概要、特徴、特色

当科は入院(病床数12)・外来とも小児の common disease を中心に幅広い疾患に対応しています(実績は後述)。川口市小児夜間救急診療事業の二次輪番病院として週1日担当しています。産婦人科の分娩数も多く、新生児疾患への対応もしていますが、NICUを併設していないため、重症な新生児対応については、近隣のNICUへ依頼しています。

当科の特徴・特色として育児支援への取り組みがあげられます。産前の院内両親学級の講師や祖父母への育児教室、子育ての仲間作りや育児支援のための子育て教室、看護師・保育士によるベビーマッサージ、栄養士による離乳食教室があります。

### 2. スタッフ

部長 和泉桂子 小児科専門医

科長 荒熊智宏 小児科専門医  
ICD(感染制御医師)

医長 平澤 薫 小児科専門医

医員 藤田泰幸 小児科専門医

非常勤 小堀勝充(アレルギー外来)、斎藤陽子(発達外来)、平井克明(発達外来)、脇田傑(循環器外来)、中村明夫(腎外来)、細谷通靖(土曜日一般外来)、計6名の非常勤医師の協力を得て外来を行いました。

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

午前に一般外来、午後は乳児健診・予防注射・専門外来を行っています。2015年6月からは水曜日午後3～4時に一般外来を開設しました。紹介患者、救急搬入、急患患者は時間外でも随時対応しています。川口市の小児夜間救急診療事業の金

曜日を担当しています。

専門外来は、アレルギー・神経・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病外来を行っています。アレルギーに関しては気管支喘息・アトピー性皮膚炎などへの対応の他、プリックテストや食物負荷試験を外来/入院で実施しています。神経外来は、小児によくあるけいれん性疾患や発達遅滞(障害)を中心に診察しています。心理外来は心身症や不登校などに対応しており、医師による診察、心理発達検査の他、臨床心理士によるカウンセリングも行っています。心理外来は年々患者数が増加しております。

乳児健診は多職種(医師、看護師、保育士、管理栄養士)の協力を得て、育児支援に力をいれた形で実施しています。予防接種は同時接種(1回4本まで)や基礎疾患のある児(けいれん発作、アレルギーなど)にも対応しています。

小児科外来患者数 年間 17,230人(小児科紹介患者数 年間 361人<入院 99人>)

川口市小児夜間救急(一次および二次救急)  
毎週金曜日 年間 1,112人

乳幼児健診 1ヵ月 518人、3-4ヵ月 380人、6-7ヵ月 290人、9-10ヵ月 189人、1歳 187人、1歳半 341人  
合計 年間 1,905人(延べ人数)

予防接種 年間 4,466人(延べ人数)

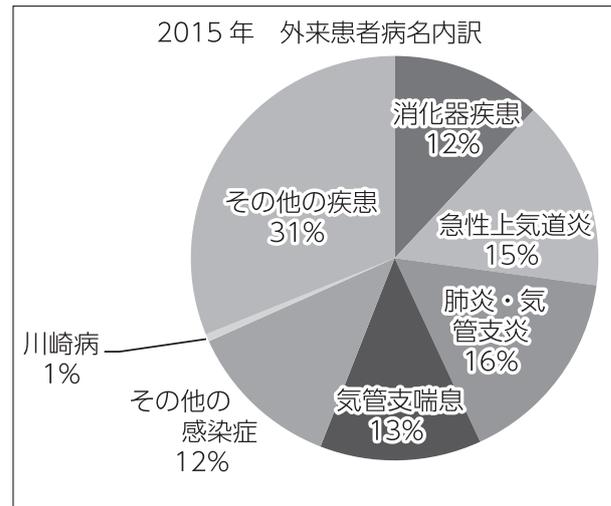
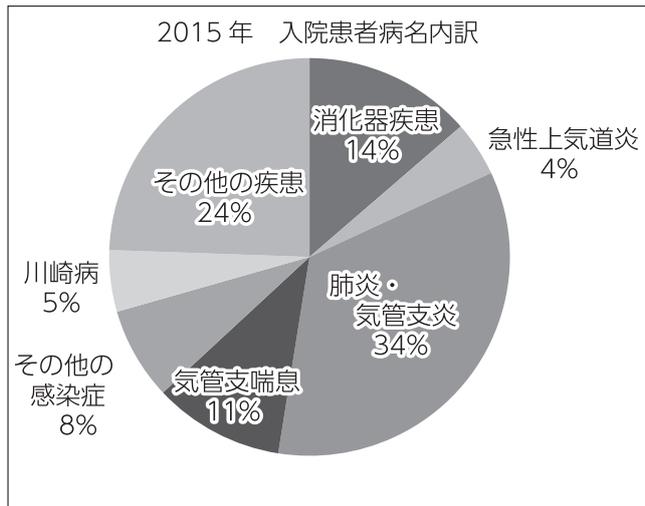
#### 3.2 病棟診療

小児科入院ベッド数 12床、小児科入院患者数 年間 495人(疾病割合は表参照)

産科分娩数 年間 525人、早期新生児疾患入院数 年間 132人

#### 3.3 育児支援活動

- ・院内うぶ声学校(両親教室):小児科医が講師として月1回担当しました。
- ・ベビーマッサージ:看護師・保育士のマッサー



ジ指導および医師による育児相談。月1回。

- ・孫と一緒に広場（祖父母への育児教室）：年3回。
- ・子育て教室：生後6～12ヵ月の児を対象に1クール3回の教室を行い、そこで子育ての仲間づくりもすすめています。年2クール。

### 3.4 外部活動

園医として担当する保育園6園、校医として担当する小学校が木曾呂小学校、差間小学校の2校あり、学校健診・保育所健診を行っています。また、市の3歳児健診も輪番で担当しています。法人内の川口診療所の依頼により保育園（1園）の健診も担当しました。こども保健教室を1回実施しました（年2クール）。

## 4. 教育・研修・研究活動

### 4.1 教育・研修

当院の初期研修医2名、家庭医後期研修医1名の小児科研修を実施しました。カンファレンスは、入院患者の病棟カンファレンス（週1回）、乳児健診カンファレンス（週2回）、アレルギーカンファレンス（週1回）、産婦人科と合同で周産期カンファレンス（月1回）、文献抄読会（週1回）を定期的に行っています。

### 4.2 研究

学会研究会活動（発表）

- 2月22日 荒熊智宏「整復困難な腸重積で発見された重複腸管の乳児例」第52回埼玉県医学

会総会

- 3月11日 平澤 薫「鼻汁中RSウイルス抗原陽性だった肺膿瘍の1歳女児例」川口医師会小児科部会症例検討会
- 6月13日 平澤 薫「運動会練習後に背腰痛で発症した急性腎不全の1例」第29回日本小児救急医学会総会
- 7月15日 荒熊智宏「マイコプラズマ肺炎の家族例一検査と治療についての検討ー」川口医師会小児科部会症例検討会
- 9月11日 藤田泰幸「治療により順調な経過を辿っていたが成長に伴い自己分析力が向上し一時的に自尊心の低下を認めた注意欠陥多動性障害（AD/HD）の1例」第33回日本小児心身医学会学術集会
- 11月11日 平澤 薫「初診時腹膜炎と診断したマイコプラズマ肺炎患児の1症例」川口医師会小児科部会症例検討会
- 学会研究会活動（著書）
- 荒熊智宏「整復困難な腸重積症で発見された重複腸管の乳児例」埼玉県医学会雑誌 vol.50 No.1 258-262

## 外科

### 1. 概要、特徴、特色

当院外科は、地域の患者さんに必要十分の良質で高度な医療を提供すべく、日々の診療に励んでいます。

鏡視下手術の割合が増加しつつある近年の傾向は2015年も継続しており、胃切除（全摘を含む）は23%、大腸切除は46%、肺手術は67%、肝切除は12%、膵切除は17%を鏡視下で実施しました。胆嚢摘出術、虫垂切除についてはほぼ全例（胆摘：97%、虫垂切除：98%）が腹腔鏡視下手術でした。

鏡視下手術は、適応を適切に定め安全性を担保して行えば、非常に優れた手術法です。腹腔鏡による拡大視効果で、開腹手術よりも微細な解剖学的構造を意識した手術が可能です。手術時間は開腹手術に比べ長くなりますが、体壁の破壊が少ないこと、臓器が空気にさらされないことなどから身体への侵襲が少なく、開腹手術に比べた術後の回復の速さには感動すら覚えることがあります。技術の向上と体制の確立、手術器具の進歩により、適応できる疾患、病態が増えており、今後もさらに鏡視下手術の割合が増加していくものと考えられます。

一方、開腹／開胸による高難度の手術にも積極的に取り組んでいます。2015年は肝胆膵外科学会の定める高難度手術（膵頭十二指腸切除、肝葉切除など）を22件実施しました。高度進行癌や肝胆膵領域の手術では、時に長時間に及ぶ大手術が必要となります。安全性を担保しながらどこまでの拡大手術を行えるかは、その病院の外科診療の質を測る一つの指標であると考えられます。可能なかぎり治癒の可能性を追求する姿勢を大切にしています。

緊急性の高い疾患にも迅速な対応を心がけており、2015年の全身麻酔による緊急手術は118件

でした。地域の医院・診療所からのご紹介にも速やかな対応を心がけております。

診療レベル向上のため、外部研修や学会参加を積極的に行っています。現在、1名の医師が愛知県がんセンター中央病院消化器外科で研修中です。

今後も地域の患者さんから信頼される埼玉協同病院外科であるよう研鑽を積み、日々の診療に励んで参ります。

### 2. スタッフ

院長補佐	井合 哲	日本外科学会外科指導医 麻酔科標榜医
外科技術部長	佐野宗明	日本乳癌学会専門医
外科技術部長	市川辰夫	日本外科学会外科指導医
外科技術部長	長 潔	日本外科学会外科指導医
外科部長	井上 豪	日本外科学会外科専門医
外科技術部長	植田 守	日本外科学会指導医 日本消化器外科学会認定医 日本胸部外科学会認定医 日本がん治療認定医機構暫定教育医
外科医長	浅沼晃三	日本外科学会外科専門医 日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 麻酔科標榜医
乳腺外科科長	金子しおり	日本外科学会外科専門医 日本乳癌学会認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

病棟医長 栗原唯生

日本外科学会外科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

ICD（感染制御医師）

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

外科医長 佐野貴之

日本外科学会外科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

医員（外部研修）重吉 到

日本外科学会外科専門医

医員 岸本 裕

### 3. 診療実績（次頁表参照）

#### 3.1 外来診療

#### 3.2 手術

### 4. 教育・研修・研究活動

#### 4.1 教育・研修

当院は、日本外科学会専門医制度修練施設、呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器外科学会消化器外科専門医制度関連施設になっています。

#### 4.2 研究

・浅沼晃三：

「小腸脂肪腫を先進部とした成人腸重積症の一例」

第 51 回日本腹部救急医学会総会

・植田 守：

「胸膜肺全摘術後 6 年再発生存中の stage I b 胸膜中皮腫の 1 例」

第 25 回三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会

「膈体部切除後の食道癌手術の経験」

第 69 回日本食道学会学術集会

・佐野貴之：

「尿路結腸のフォロー中に発見された胃壁外発育

型GISTの1例」

第 33 回埼玉県外科集談会

「結石により小腸閉塞をきたした 1 例」

第 77 回日本臨床外科学会総会

「当院で経験した単孔式ポートを用いた経肛門的内視鏡手術の 1 例」

第 28 回日本内視鏡外科学会総会

・栗原唯生：

「絞扼性イレウスの早期診断に寄与する因子の検討」

第 51 回日本腹部救急医学会総会

「回腸重複腸管による回腸結腸型腸重積症の 1 例」

第 33 回埼玉県外科集談会

「急性虫垂炎に起因した多発肝膿瘍の 1 例」

第 77 回日本臨床外科学会総会

「経膈的腹腔鏡下虫垂切除術に適した症例の検討」

第 28 回日本内視鏡外科学会総会

〈外来診療〉

外来患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1,181	1,142	1,158	1,214	1,058	1,258
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1,258	1,211	1,190	1,630	1,434	1,526

〈手術〉

診療実績 (診断群分類6桁別、2015年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病名	件数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	年齢	在院日数	診断検査	計画的繰り返し入院	その他の加療
肺の悪性腫瘍	31	0	12	14	70.7	14.1		16	15
胃の悪性腫瘍	92	4	32	51	70.4	20.6	4	27	61
小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	21	1	16	5	59.7	8.3		16	5
結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	144	4	69	78	71.0	14.9	13	48	83
直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	62	1	29	37	68.2	18.1	1	24	37
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(統病性を含む)	15	1	6	13	69.4	27.1			15
膵臓、脾臓の腫瘍	16	0	9	9	66.6	22.3	3	3	10
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	49	0	18	36	73.4	2.8	12		37
虫垂炎	69	7	16	56	42.2	7.4			69
鼠径ヘルニア	91	1	24	89	66.2	6.1			91
閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	31	4	9	28	69.2	11.6			31
ヘルニアの記載のない腸閉塞	55	12	19	20	71.9	22.5			55
胆嚢疾患(胆嚢結石など)	40	0	13	37	59.9	7.5	1		39
胆嚢水腫、胆嚢炎等	80	5	26	76	61.4	9.7			80
鼠径ヘルニア	37	0	9	37	59.3	4.4			37
大腸ポリープ	32	0	4	32	70.3	2.2			32
手術・処置等の合併症	22	0	4	18	71.0	13.0	2	1	19
その他の疾患	162	21	56	94	67.3	20	7	9	146
計	1049	61	371	730	1188.2	232.5	43	144	862

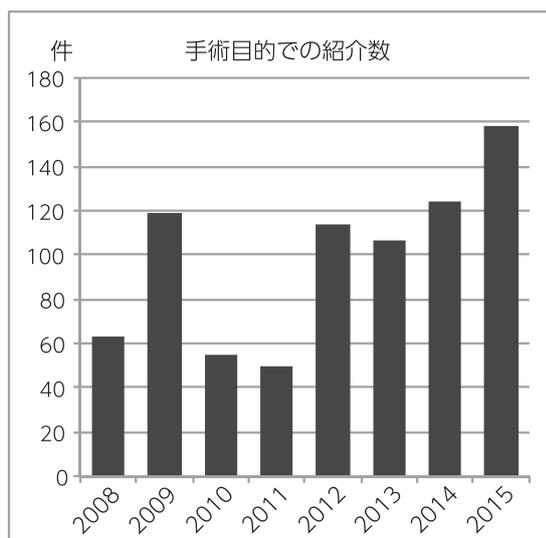
消化器外科学会修練施設 手術難易度

難易度	件数	割合
高難度	47	7.5%
中難度	203	32.4%
低難度	376	60.1%
計	626	

手術部位(併施重複)	件数
腹部・消化器	671
呼吸器	28
末梢血管	20
頭頸部・体表・内分泌	11
小児の外科手術	4
その他	9
総計	743

腹腔鏡手術施行割合

	件数	鏡視下	鏡視下手術割合
胃切除・全摘	39	9	23%
結腸切除	72	30	42%
肝切除	17	2	12%
胆のう摘出	118	115	97%
胆管切開	8	5	63%
膵切除	12	2	17%
虫垂切除	56	55	98%
直腸切除・切断	24	15	63%
脾臓摘出	4	1	25%
癒着・縫合その他	37	12	32%
総計	387	246	64%



## 乳腺外科

### 1. 概要、特徴、特色

日本において女性の癌罹患率で乳癌が1位となっており、12人に1人が乳癌に罹患しています(2008年データ)。また、社会においても家庭においても重要な役割を果たしている40歳から50歳の年代にもっとも罹患率が増えています。乳癌の治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるように、当院で乳腺外来を立ち上げ、診療を行っています。

#### 1.1 紹介

乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。特に乳癌患者様の診断から治療までかかわることにより、精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、コメディカルとの連携を図っています。

\*当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

### 2. スタッフ

科長 金子しおり

日本外科学会外科専門医

日本乳癌学会認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

囑託 佐野宗明

日本乳癌学会専門医

### 3. 診療実績

#### 3.1 検査・手術

検査	件数
乳房超音波	2,392
乳腺生検	17
乳腺穿刺	98
乳房超音波ガイド下生検	41
USマンモトーム	1
STマンモトーム	9
乳房MRI	139

行為名称	件数
乳腺腫瘍摘出術 長径5センチメートル未満	3
乳腺腫瘍摘出術 長径5センチメートル以上	5
乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	24
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	10
乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの〈内視鏡下によるものを含む〉）	3
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの	5
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施するもの	1
計	51

#### 4. 教育・研修・研究活動

##### 4.1 教育・研修（下表参照）

##### 4.2 研究

- ①抗癌剤によるサイトリスクマネージメント
- ②タキサン起因性末梢神経障害に対する弾性ストッキングによる予防効果の検証

病棟カンファレンス	毎週月曜日	入院患者のカンファレンス
術前検討会	毎週木曜日	術式の検討、全身状態のチェックなど
乳腺キャンサーボード	毎週水曜日	腫瘍内科医を中心に薬物療法の治療方針（術前、術後、再発）を検討。患者対応や緩和ケアなども検討していく
画像カンファレンス	毎月1回	放射線技師・臨床検査技師とともに画像検討
乳腺科診療チーム会議	毎月1回	乳腺診療の運営について他職種と検討していく

## 整形外科

### 1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の整形外科は地域の基幹病院の一つとしてレベルの高い医療を提供できるよう、今後もますます診療体制を充実させてまいります。

診療体制は5人の常勤医師と、14人の非常勤医師が診察にあたります。慶應義塾大学からは腫瘍、脊椎、関節外科、上肢の専門医が勤務にあたり、それぞれの専門分野を中心に外来診療・手術を行っております。

2008年10月1日より、人工関節、股関節外科を当病院整形外科のメインテーマとしてかかげ、最新のコンピューター支援手術器械であるナビゲーション手術システムを導入しました。2015年の人工関節手術実績は516件であり、埼玉県内でも有数の症例数となっております。

骨粗鬆症、外傷一般等にも適時対応しておりますので、お気軽にご相談ください。

日本整形外科学会研修認定施設

日本リウマチ学会教育施設

### 2. スタッフ

部長 仁平高太郎

日本整形外科学会整形外科専門医

日本整形外科学会認定スポーツ医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

病棟医長 北村 類

医長 遠藤大輔

日本整形外科学会整形外科専門医

医員 楊 宝峰

非常勤 横尾冠三

日本体育協会スポーツ医

非常勤	後藤 晋 日本整形外科学会整形外科専門医 日本整形外科学会認定スポーツ医
非常勤	尹 栄淑 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	朝長明敏 日本整形外科学会整形外科専門医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医 日本リウマチ学会リウマチ専門医
非常勤	森岡秀夫 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定リウマチ医 日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
非常勤	小粥博樹 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
非常勤	岡崎真人 日本整形外科学会整形外科専門医 日本手外科学会専門医
非常勤	河野美貴子 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	日下部 浩 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	川端走野 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	田村 太 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	弘實 透 日本整形外科学会整形外科専門医
非常勤	大橋麻衣子
非常勤	森重雄太郎

### 3. 診療実績

次頁診療実績表参照

## 4. 教育・研修・研究活動

### 4.1 教育・研修

モーニングカンファレンス (週3回)  
病棟カンファレンス (週1回)

### 4.2 学会発表、講演

- ・仁平高太郎  
「～人工関節手術について～股関節、および膝関節の強い痛みでお悩みの方へ」  
読売・日本テレビ文化センター健康公開講座・浦和  
「ひざと股関節の最新治療と人工関節手術」  
市民公開講座 浦和文化センター他  
「変形性股関節症の治療」  
川口整形外科医会 教育研修講座 (日本整形外科学会) 川口市民ホール・フレンジア
- ・桑沢綾乃  
「TKAにおける術後疼痛—持続選択的脛骨神経ブロックの併用について」  
第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会  
「TKAギャップテクニック」  
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 第7回JOSKASセミナー

### 4.3 テレビ出演

- ・仁平高太郎  
「人工股関節手術について」 TBSテレビ“ひるおび!” 4月3日  
「遺伝子診断について」 フジテレビ“バイキング” 12月4日

## 5. その他

股関節疾患と膝関節疾患に関して患者会がそれぞれ存在します。年に数回、患者会メンバーを中心に医師による疾患の理解を深めるための講演が行われています。

診療実績 (診断群分類6桁別、2015年退院患者)

\*医科点数表Kコード

傷病名	件数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例*	年齢	在院 日数	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
膝関節症 (変形性を含む)	134	0	42	134	73.4	41.2			134
脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	77	0	20	35	70.8	14.4	36		41
椎間板変性、ヘルニア	16	2	8	9	56.6	16.1	2		14
股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む)	270	0	83	270	65.4	27.2			270
胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む)	16	7	5	2	81.0	25.7	1		15
鎖骨骨折、肩甲骨骨折	28	1	17	27	47.2	4.2		12	16
肩関節周辺の骨折脱臼	16	0	14	16	72.9	11.3			16
肘関節周辺の骨折・脱臼	17	0	14	17	36.6	5.2		3	14
前腕の骨折	35	0	17	35	59.7	3.6		5	30
股関節大腿近位骨折	90	27	56	87	78.5	44.0		1	89
膝関節周辺骨折・脱臼	14	5	8	13	59.4	43.7		2	12
足関節・足部の骨折、脱臼	37	1	22	35	47.1	11.1		10	27
手術・処置等の合併症	14	1	6	13	69.1	33.2			14
その他の疾患	136	11	62	108			7	3	126
計	900	55	374	801	817.8	280.8	46	36	818

手術 (併施含む)

術式	件数
人工股関節置換術	326
人工股関節再置換術	8
人工膝関節置換術	190
人工膝関節再置換術	2
その他の関節手術	21
脊椎固定術	49
椎間板摘出術	9
脊髄腫瘍摘出術	1
その他脊椎手術	10
骨折手術	223
人工骨頭挿入	28
四肢切断	6
アキレス腱断裂手術	4
その他の手術	318
計	1,195

紹介	773
----	-----

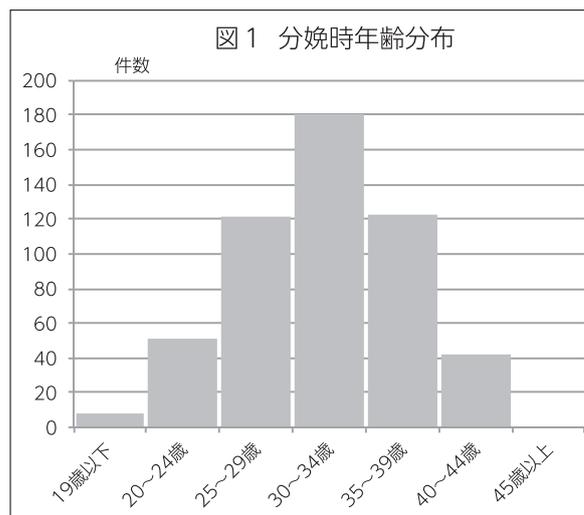
## 産婦人科

## 1. 概要、特徴、特色

2015年7月には研修に出ている布施医師が自治医科大学さいたま医療センターより帰任し、専門医資格を取得、現在も週1回研修を継続しています。また、日本専門医機構による専門医制度2017年度開始にむけ、産婦人科専門医養成の一端を担うべく自治医科大学さいたま医療センターを基幹施設とする研修施設群に連携施設として登録を行いました。

医療活動の実績としては、分娩数・手術数ともに2014年に比して増加しています。

分娩数は73件の増加でしたが、特徴的なこととしては40歳を超える高齢妊娠の増加と20歳前後の妊娠の増加、精神疾患合併妊娠の増加があります(表1、図1)。若年や精神疾患合併妊娠の患者様の背景として、経済的困難や複雑な家族関係、



外国人の親御さんや一人親家庭で育ち自身も分娩後一人親となることが決まっている等、社会的に困難を抱えているケースの比率が高いことが挙げられます。また若年の場合、初診時に週数が進んでいることも多く管理上もハイリスクといえます。昨今「子どもの貧困」が社会問題となり、子どもの6人に1人が相対的貧困の状態にあるといわれています。妊娠・出産の中で貧困につながるリスクを抱えた方を的確に把握し、社会制度を利用し

たり、保健センターなど公的機関と連携しながら育児支援に努めるとともに、若年妊婦の高卒資格取得などの生活安定に向けた働きかけなども始めています。

母体搬送については川口市立医療センターに多くの搬送を受けていただきました。また県のコーディネーターシステムが軌道に乗り、地域の中で安全性が確保され、以前のように搬送にあたり10件以上も電話をしました(表2)。

出生前診断についてはNIPT(母体血胎児染色体検査)が知られるようになり、近隣で獨

表1 分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2015年
19歳以下	8
20~24歳	51
25~29歳	121
30~34歳	180
35~39歳	123
40~44歳	42
45歳以上	0
計	525
帝王切開	106
合併症妊娠	
子宮筋腫	10
精神疾患	13
甲状腺疾患	7
高度肥満	18
糖尿病	3
PIH	36
GDM	15
円錐切除後頸管縫縮	9

表2 母体搬送の週数および紹介先

母体搬送	週数	件数
母体搬送		10
	~22週	0
	23~27週	1
	28~31週	4
	32~34週	4
	35週以上	1
搬送先		件数
	川口市立医療センター	7
	済生会川口総合病院	2
	埼玉病院	1

表3 出生前診断紹介数

出生前診断	件数	
出生前診断	34	
	羊水検査	11
	超音波検査	10
	NIPT	19

協医科大学越谷病院も臨床研究に参加することとなったため、紹介が増加しています(表3)。検査を受けるか悩む患者様も多く、個々の生命倫理観にも配慮し、納得できる形での決定に寄り添っていくよう努力しています。また胎児超音波検査の精度も上がり、先天性心疾患を妊娠中に診断し、出生後早期に治療を開始することが求められるようになってきました。このため埼玉県立小児医療センター循環器科菱谷隆先生に12月から4ヵ月間、月1回胎児心エコーの指導を受け、技量の向上に努めました。

手術については総数は横ばいでしたが、布施医師の帰任により腹腔鏡手術が増加しています。比較的高齢の患者様がQOL向上を目的に手術を希望され、子宮脱手術も増加しました(表4)。

月経困難や過多月経については、保存的治療の選択肢としてIUS(ミレーナ®)が保険適応と

表4 婦人科手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	171	うち紹介 49
子宮筋腫	62	(帝切時7含む)
卵巣腫瘍・含内膜症 (うち腹腔鏡)	55 (7)	
異所性妊娠	5	
頸部異形成	27	
子宮脱	14	
その他	8	

表5 ホルモン療法患者数

低用量ピル	3ヵ月以上
トリキュラー	57
オーソM	10
ルナベル	67
計	134
エストラーナテープ	35
メノエイドコンビパッチ	18
ディナゲスト	60
ミレーナ	10
GnRH	3ヵ月以上
リュープリン	43
ナサニール	74

表6 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
国立がんセンター中央病院	8
がん研究会有明病院	5
がん・感染症センター都立駒込病院	3
埼玉県立がんセンター	9
自治医科大学附属さいたま医療センター	4
済生会川口総合病院	3
東京女子医科大学付属病院	3
埼玉医科大学国際医療センター	2
獨協医科大学病院	2
慶應義塾大学病院	2
その他	8
悪性腫瘍	例数
子宮頸がん	19
子宮体がん	11
卵巣がん	9
子宮頸部異形成	7
子宮肉腫	2
膀胱がん	1
総計	49

表7 健診・予防

子宮がん検診	
頸がん	4,265
体がん	3,077

なり、使用数が増加しています。経済的・時間的にメリットの大きい治療法であり、他の選択肢と併せ個々の患者様に合った治療法の選択を考えていきます(表5)。

悪性腫瘍の患者様の中には、子宮頸癌や子宮体癌で不正出血が持続していたり、卵巣腫瘍で腫瘍を自覚していても受診につながらず発見が遅れる例もあり、受診しやすい社会環境の整備が必要です(表6・7)。

産科・婦人科ともに社会的困難を抱えた患者様が増加しており、民医連・医療生協の病院として、その方々にとっても支えとなる医療機関となるよう努力してまいります。

## 2. スタッフ

部長	市川清美	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 検診マンモグラフィー読影認定医師 母体保護法指定医
副部長	榎本明美	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
医長	芳賀厚子	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本産科婦人科学会専門研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 母体保護法指定医
医員	伊藤浄樹	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
医員	布施 彩	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 新生児蘇生法「専門」コース修了
非常勤	竹内育代	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
非常勤	岡野滋行	日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医
非常勤	前川 徹	
非常勤	上野紀子	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
非常勤	藪田直樹	
嘱託	神谷 稔	日本産科婦人科学会産婦人科専門医

## 3. 診療実績

表 1	分娩数と出産年齢および合併症
表 2	母体搬送の週数および紹介先
図 1	分娩時年齢分布
表 3	出生前診断紹介数
表 4	婦人科手術
表 5	ホルモン療法患者数
表 6	悪性腫瘍紹介数
表 7	健診・予防

## 4. 教育・研修・研究活動

定例カンファレンス（周産期 1 回／月 術前 2 回／月 病棟 1 回／週）

## 【学術活動】

- ・「当院における新基準導入前後の妊娠糖尿病患者についての検討」  
第 85 回埼玉産科婦人科学会・埼玉県産婦人科医会 平成 26 年度前期学術集会  
発表者 芳賀厚子
- ・「エストロゲン徴候を認めた卵巣線維肉腫の 1 例」  
第 130 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会  
発表者 布施 彩（研修先・自治医科大学さいたま医療センターより）
- ・「産科診療 Q & A」中外医学社 共著者 布施 彩（自治医科大学さいたま医療センター）

## 【社会的活動】

- ・うぶ声学校、「孫と一緒に」広場（祖父母の育児支援）、いのちの授業
- ・「ふれあい」季刊 夏号（「協同病院のがん検診」子宮がん検診 担当 芳賀厚子）
- ・2月23日 全職種症例検討会「社会的困難を抱えた患者様の妊娠管理と分娩後の肺癌発症」  
担当 芳賀厚子
- ・3月27日 全日本民医連 医学生をつどい「女性と子どもの貧困」担当 芳賀厚子
- ・7月9日「医師を目指した理由と仕事の紹介」浦和市立高校 担当 布施 彩

## 泌尿器科

### 1. 概要、特徴、特色

泌尿器科では地域の泌尿器科疾患の治療に貢献すべく診療にあたっています。2014年4月からは吉井隆医師が常勤として加わり、常勤2名体制で外来・入院の治療にあたっています。

今年は、医師体制が充実したこともあり、体外衝撃派結石破砕術の件数を増やし、近年増加する尿路結石症の治療に対応しています。また専門看護師による骨盤底筋体操、自己導尿の指導を行い、問診も点数化し客観的に症状を把握して、できるかぎりガイドラインに沿った治療を心がけています。重症の患者さんは獨協医科大学越谷病院または帝京大学医学部附属病院と連携をとって治療にあたっています。

### 2. スタッフ

部長 林 幹純 日本泌尿器科学会認定専門医  
日本透析医学会透析専門医  
医長 吉井 隆 日本泌尿器科学会認定専門医  
非常勤 斎藤恵介 日本泌尿器科学会認定専門医  
非常勤 八木 宏 日本泌尿器科学会認定専門医  
非常勤 永榮美香 日本泌尿器科学会認定専門医  
非常勤 定岡侑子  
非常勤 鈴木啓介  
非常勤 子安洋輝

常勤医は2名（泌尿器科専門医、透析専門医）、非常勤6名（専門医3名）で治療にあたっています。専従看護師は3名です。主に獨協医科大学越谷病院、帝京大学医学部附属病院の医師が非常勤を担当しています。

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

外来は週6日で2～3診体制で行っています。

1日の平均外来患者数は約76人です。午後は主に予約外来と膀胱鏡、前立腺生検、尿路造影などの検査を行っています。

外来化学療法はホルモン抵抗性前立腺癌に対してドキタキセル、骨転移の症例はゾレドロン酸やデノスマブを投与、膀胱癌は術後の再発予防として外来で膀胱内注入を行っています。

尿路結石に対して体外衝撃波結石破砕術は症例を選んで外来で行っています。

#### 外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
患者数	1773	1714	1812	1866	1781	1816
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	1947	1757	1660	1896	1829	1910
				合計	21761	

#### 3.2 病棟診療（次頁診療実績表参照）

病棟は主に手術の患者さんです。その他に尿路上皮癌の化学療法、体外衝撃波結石破砕術、前立腺生検の患者さんを管理しています。

#### 3.3 手術

次頁「手術（併施含む）表」参照

### 4. 教育・研修・研究活動

#### 4.1 教育・研修

日本泌尿器科学会専門医教育施設

診療実績（診断群分類6桁別、2015年退院患者）

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例*	年齢	在院 日数	診断 検査	計画的 繰り返し入院	その他 の加療
11001x	腎腫瘍	4	0	1	3	69.5	12.3		1	3
110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	6	0	2	3	74.3	11.3	2		4
110070	膀胱腫瘍	33	0	13	30	75.0	12.6	2		31
110080	前立腺の悪性腫瘍	117	0	51	7	71.1	3.7	103	4	10
110100	精巣腫瘍	1	0	0	1	45.0	9.0			1
11012x	上部尿路疾患	96	1	29	95	55.9	2.3			96
11013x	下部尿路疾患	7	0	0	6	74.0	3.3			7
110200	前立腺肥大症	14	0	5	14	70.1	10.4			14
11022x	男性生殖器疾患	14	0	3	7	61.9	7.8			14
110290	急性腎不全	1	0	0	1	71.0	15.0			1
110310	腎臓または尿路の感染症	5	0	2	2	69.4	11.2			5
110320	腎、泌尿器の疾患（その他）	2	0	0	2	44.5	3.0			2
110420	水腎症（その他）	1	0	0	1	75.0	6.0			1
180040	手術・処置等の合併症	1	0	1	1	70.0	4.0			1
	計	302	1	107	173			107	5	190

手術（併施含む）

術式	件数
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）	24
経尿道的前立腺手術（その他のもの）	8
経尿道的尿管ステント留置術	7
前立腺悪性腫瘍手術	6
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	5
陰嚢水腫手術（その他）	5
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	5
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	4
内シャント設置術	3
腎（尿管）悪性腫瘍手術（1歳以上の場合）	3
動脈形成術、吻合術（その他の動脈）	2
腎摘出術	2
外尿道腫瘍切除術	2
その他	10
総計	86

前立腺生検	103
紹介	416

## 皮膚科

### 1. 概要、特徴、特色

協同病院皮膚科には常勤医2名、非常勤医6名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつです。この8名で平日午前中と金曜日午後、月曜日夜間の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では、通常の皮膚疾患をしっかり診断し治療することを基本方針として診療をしています。

診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法その他、手術療法や紫外線治療なども施行し効果を上げています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者QOL向上に有益と考えています。

### 2. スタッフ

部長	伊藤理恵	日本皮膚科学会認定専門医 日本皮膚科学会認定指導医
医長	田中純江	日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	大西誉光	帝京大学皮膚科准教授 日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	六波羅詩穂	日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	上田 周	日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	関 詠姿	日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	笹平撰子	日本皮膚科学会認定専門医
非常勤	生野由起	

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

平日午前中は3人体制で、金曜日午後と月曜日夜間には1診体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2015年の皮膚科延べ外来受診数は19,983名であり、1日平均外来受診人数は70名でした。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性座そう、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

#### 3.2 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。手術件数は年間約250件で、局所麻酔下での手術が主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。おもな内容は表皮腫瘍、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

#### 〈自費診療部門〉

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

- (1) アンチエイジングを目的としたレーザー治療 (年間約270件) やイオン導入、ケミカルピーリング (年間約170件)、美白剤の処方など。
- (2) 男性型脱毛症への内服治療
- (3) 円形脱毛症などに対する局所免疫療法 (S A D B E 治療)
- (4) 陥入爪への超弾性ワイヤーによる矯正治療
- (5) ピアスホール作成  
などを施行しています。

### 4. 教育、研修

#### 4.1 教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施

設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

#### 4.2 学会発表・講演

「内科診療に役立つ皮膚科の知識」埼玉医療連携の会、「皮膚病診療基本のキ」首都圏病診連携を考える会

## 眼 科

### 1. 概要、特徴、特色

現在、常勤医 1 人体制で、週 2 回の外来診療を、帝京大学派遣の非常勤医師が担当しております。

診療の内容は、一般眼科としての幅広い眼科全般の診療（白内障・緑内障・糖尿病性網膜症・神経眼科）はもちろん、京都府立医大にて学位を賜る過程に勉強した経験を生かして角膜疾患を得意としております。

地域の病院として、疾患についての知識が少ない患者様にも、前眼部撮影装置、OCT等の結果を画像にて供覧しながら、疾患のイメージが掴めるよう説明し、ご本人が疾患を理解した上で、積極的に治療に取り組んでもらうことを心がけています。

総合病院の眼科である利点を生かして、眼症状を初発症状として、耳鼻科領域、脳外科領域の疾患が疑われる場合には、CT、MRI等を速やかに撮像し、的確な治療に回せるよう努めています。

### 2. スタッフ

部長	堀 邦子	日本眼科学会専門医
非常勤医師	竹井浩明	
	寺内 岳	
	曹 圭徹	
	溝田 淳	
	松本惣一	
	篠田 啓	
	根本裕次	
	近藤尚明	
	松本浩一	
	渡邊恵美子	
	坪井隆政	
	浜野茂樹	

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療

外来患者数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
患者数	612	667	792	736	658	745
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	773	730	676	777	637	712
			合計	8,515		

#### 3.2 手術

月、木曜日の午後に、白内障手術を中心に行っております。また、不定期ですが、翼状片、眼瞼下垂、内反症といった外眼部小手術も行っております。規模的制約があるため、硝子体手術などより高度な設備が必要な患者様は、大学病院にご案内しています。

白内障手術に関しては、EPA装置としてインフィニティを導入しており、安全で、負担の少ない手術を心がけております。

眼内レンズは、より高いQOV（視覚の質）が得られるよう非球面レンズ、乱視矯正レンズを積極的に用いています。多焦点レンズの適応となる若年の患者様には、その選択肢もあることを伝えて、希望があれば専門施設をご案内しています。

総合病院の眼科として、他科にかかりつけで何らかの全身合併症のある患者様の手術にも可及的速やかに対応しております。

また、近隣の開業の先生方からのご紹介患者様も積極的に受け入れております。ご高齢の方、合併症をお持ちの方には、入院での手術をお勧めすることが多いですが、患者様の背景によっては、ご希望に応じて日帰り手術も行っているほか、柔軟かつ質の高い対応を目指しています。

## 精神科

### 1. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院に精神科が開設されたのは、1986年です。精神科非常勤医師1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、約20年が経過しました。現在は精神科常勤医師2名、非常勤医師1名の体制となっています。

日本の精神医療は、歴史的に単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきましたが、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになってきています。その結果、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べ精神科医療は患者さんにとって大変利用しやすいものとなっています。その一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、むしろ最近は総合病院で働く精神科常勤医師数は先細りの傾向にあり、埼玉県南部地域でも常勤医師が複数いる病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として、以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方（概ね高校生以上）まで幅広い年齢層の患者を受け入れております。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、認知症、うつ病、不安障害、慢性期の統合失調症、アルコール依存症など幅広い疾患を受け入れております。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供できることも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近は出産子育ての過程で精神的に

不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

## 2. スタッフ

部長 雪田慎二

日本精神神経学会認定専門医（指導医）

日本総合病院精神医学会特定指導医

精神保健指定医

一般病院連携精神医学特定指導医

医長 荻野マリエ

日本精神神経学会認定専門医

非常勤 堀内慶子

日本精神神経学会認定専門医

精神保健指定医

## 3. 診療実績

外来診療：月～金で再来1～2診体制。新患外来は別枠で実施。新患は年間約200例。

精神科デイケア：月・水・金の週3回実施。

リエゾン活動：身体科入院患者への精神科医療の提供。緩和ケアチーム回診。

緩和ケア病棟：病棟スタッフとして診療。

被ばく相談外来：週1回。放射線被ばくによる健康問題の相談援助。

## 4. 教育・研修・研究活動

精神科多職種カンファレンス（週1回）

精神科抄読会（週1回）

精神科新患カンファレンス（適宜）

地域の社会復帰施設との合同カンファレンス（月1回）

## 5. その他

地域での講演活動（認知症・うつ病・統合失調症など精神障害に関する啓発的講演、被爆者医療・放射線被ばくによる健康影響等についての講演）

## 病理診断科

### 1. 概要、特徴、特色

常勤医1名と非常勤医3名の病理医が診断を行っています。難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

### 2. スタッフ

病理部長 石津英喜

日本病理学会専門医

日本臨床細胞学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

産婦人科病棟医長

芳賀厚子

日本臨床細胞学会専門医

非常勤 大石克巳

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

非常勤 北野元生

日本病理学会口腔病理専門医

非常勤 江石義信

日本病理学会専門医

### 3. 診療実績

検体数の推移

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
解剖数	15	13	16	14	8	9	12
生検数	7,257	7,097	6,948	6,989	7,138	7,136	6,147
細胞診数	7,947	7,859	7,460	6,937	6,982	6,923	7,405

### 4. 教育・研修・研究活動

#### 4.1 教育・研修

認定施設：日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設

病理科内での症例検討会：週1回

消化器カンファレンス：週1回

CPC（臨床病理検討会）：医局主催で年5回程度

### 5. その他

当院の特徴として、病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても当直、外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

## 糖尿病内科

### 1. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと協同して患者教育にも努めています。

### 2. スタッフ

糖尿病専門外来、糖尿病初診外来、はじめ外来、フットケア外来、外来栄養指導、糖尿病透析予防指導外来を行っています。

科長 村上哲雄

日本糖尿病学会研修指導医

日本糖尿病学会専門医

日本内科学会認定内科医

医員 高橋きよ子

日本糖尿病学会研修指導医

日本糖尿病学会専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科指導医

日本内科学会認定内科医

医員 島村裕子

日本内科学会認定内科医

医員 関口由希公

日本糖尿病学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医

医員 熊谷尚子

日本内科学会認定内科医

非常勤 清水 縁

日本糖尿病学会研修指導医

日本糖尿病学会専門医

糖尿病学会認定研修指導医 3名

糖尿病学会専門医 4名

院内C D E J (Certified Diabetes Educator of Japan) 11名

### 3. 診療実績

#### 3.1 外来診療（患者数 2015年 13,277人）

3.1.1 糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

3.1.2 糖尿病教育、糖尿病教室も含めての、“はじめ外来”を行っており、診察も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。また、はじめ外来ではカンバセーションマップ（会話のための地図）を用いての患者教育、栄養指導、薬の指導も行っています。

3.1.3 インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は年間 610名（うち 75歳以上 171名）でした。また、インスリン注射の手技の再チェックを必要時行っています。

3.1.4 GLP-1注射薬（ビデュリオン、ピクトーザ、リキスミア、バイエッタ）も導入しています。

3.1.5 C S I I（持続皮下インスリン注入療法）も行っています。

3.1.6 CGMS（持続血糖モニタリングシステム）も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院外来で施行しています。

3.1.7 フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。

3.1.8 糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病

腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的にいき、2015年中では31名指導しました。

3.1.9 糖尿病患者会、および日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行って啓発を行っています。

### 3.2 病棟診療

3.2.1 糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、71名がパスに則りコントロールを行いました。

3.2.2 マゴットセラピー提携病院となっています。

3.2.3 局所陰圧閉鎖療法も必要時行っています。

## 4. 教育・研修・研究活動

### 4.1 教育

4.1.1 毎週1回糖尿病カンファレンスを医師、コメディカルスタッフで行っており、症例数は2015年89名であり、患者の日常生活環境、問題点などについて検討し、指導のポイントなどについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

4.1.2 毎月1回糖尿病事務局会議を行い、新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

### 4.2 研究

4.2.1 糖尿病合併症進展因子についての検討

4.2.2 糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

### 4.3 その他

#### 4.3.1 学会活動

日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会関東甲信越地方会、糖尿病学の進歩

#### 4.3.2 研究会活動

・川口インクレチン研究会、川口DMカンファレンス、CGMS研究会、彩の国糖尿病研究会

・島村裕子他「降性糖尿病の血糖コントロール」彩の国糖尿病研究会 7月28日

・糖尿病療養指導士 田中裕美「外来CGMにより無自覚性低血糖を発見できた1型糖尿病患者への関わり」第4回南埼玉CGMカンファレンス 11月12日